

## 第5回旧端出場水力発電所保存活用検討委員会議事録

日 時 平成24年2月16日(木)  
13時30分～14時50分  
場 所 市役所2階24会議室  
出席者 7名(亀井、仙波、薦田、杉本(委員長)、土岐、吉川、田中)  
欠席者 3名(船越(副委員長)、鴻上、沢田)  
事務局 別子銅山文化遺産課 横井(課長)、加藤

委員長 昨年の秋口から久しぶりの会になります。ただ今から、第5回旧端出場水力発電所保存活用検討委員会を始めます。議題は事前にお知らせのとおりでございます。説明があり時間を要するかと思いますがよろしく願いいたします。議題1 今年度事業の経過及び結果について事務局からご報告願います。

課長 本来ならば、旧年中に開きたかったのですが、延び延びになってしまい、整備計画書のパブリックコメントを既に求めている時期に開くようになりましてお詫び申し上げます。議題に沿いまして、今年度事業で端出場水力発電所に関係する部分だけですがご説明いたします。県道側の法面ですが、石積みが大きく崩れているところがありまして、それを復旧するための実施設計を行い、復旧工事を行っています。都市計画課と協議したうえで、法面の復旧、鉄筋での補強、水の流れをよくするために建物の周辺に水路を設けまして、水を流す仕組みを作る。あとは管理用階段を作ることで、今までは中へ入るのに共電さんの許可を頂いていたということでしたが、職員だけで入ることもございますので、そういう時には管理用の階段を設けて、そこを開けて入るようにしたいということで、階段設置、フェンス改修を行っています。それと以前にも申しましたが、発電所の建物の調査、今の現況調査です。それと中にあります関連施設の調査について京都工芸繊維大学の矢ヶ崎准教授に委託いたしました。中の発電機の調査については国立科学博物館の前島研究主幹をお願いしております。ジーメンス、日立、三菱の機械がありまして、メーカーに問い合わせして、一部は回答を頂いております。継続して調査してくれる会社もでございます。来年度作成予定の調査報告書の中に入れたいと思っています。図面調査などについては共電さんにはご迷惑をおかけしておりますが、引き続きご協力いただけたらと思っております。それと、端出場水力発電所については取水からの流れが非常に大事だと文化庁からも指摘されておりまして、石ヶ山丈の煉瓦造の貯水池が残っております。昨年12月に調査を行ったのですが、非常に天気が悪い日でしたので、もう一度、調査に入っていきたいと思っております。これについては林業さんの大斜坑前の道を利用させてもらったのですが、夏の台風で崩れておりまして奥まで車で入ることができず、調査に手間取っている次第です。これについては大事なものだと思っておりますので調査をしっかりと報告書に載せたいと思っております。それと水力発電所にライトアップできる施設は以前から付いていましたが、そのままになっていました。11月19日に、ここ3年間にわたって取り組んでいる「えんとつ山の日」と位置付けているイベントの一環として旧山根製錬所煙突、旧広瀬邸、常夜灯と共にライトアップを行いました。非常に好評でした。それでマイントピア別

子の船越専務からの申し入れがありまして、12月20日から1月3日までもライトアップを行いました。専務からも非常に好評でしたというご報告をいただいております。今後については運輸観光課長、船越専務らと協議しながら進めていけたらいいのかなと思っております。1番の議題のご説明は以上です。

委員長 ありがとうございます。ご質問、ご意見等はございませんか。よろしいですか。全体的にありました時をお願いしたいと思います。2番目の別子銅山近代化産業遺産を活かしたまちづくり総合整備計画案につきまして事務局からご説明をお願いいたします。

課長 先ほど申しましたとおり、パブリックコメントを2月1日から21日までの間、求めています。その内容と申しますのは、この報告書は1章から3章に当たる部分になるのですが、1章につきましてはこれまでの動き、過去に平成9年と平成14年に別子銅山の近代化遺産を使ったまちづくりの報告書を作っていたのですが、これらはあまり市民の皆さんに知られていないものになっており、過去にはこういう内容の報告書が出ており、そのうえで今回の報告書がありますということと述べるのと共に、平成14年以降の取り組みにつきましては、経産省が認定した「近代化産業遺産群33」がありますが、この中に瀬戸内の工業地域ということで別子銅山近代化遺産群が選ばれておりその紹介をしております。また、全国的な内容のフォーラムを数回にわたり実施しております、全国近代化遺産活用連絡協議会主催の全国大会や「金銀銅サミット」を開催し、石見銀山の太田市や佐渡金銀山の佐渡市から市長に参加していただき、実施したというご報告をしております。

あとは、登録有形文化財も増えております。特に、広瀬邸については、平成15年5月に重要文化財となり、別子銅山関連の近代化産業遺産が文化財であるといった認識を具体的にされてきたということがありましたので、それらの整理も今回同時に行っております。

2章ではそれらの産業遺産でどこにどういうものがあるのか、ご存じない方もいらっしゃると思います。きちんと整理して、ここにはこんな遺跡が残っておりますというのを図に表わしました。それと指定文化財・登録有形文化財になっている箇所を図に表わしています。それと市民の意識調査として、昨年、環境自治体会議を5月に開催した時やJR駅の90周年のイベントの時に会場でアンケートを取らせていただきました。実際に調査した結果、別子銅山の産業遺産というのは太鼓祭りと共に、市民の誇りなのだとの結果が断トツで新居浜らしさを示すものだとということが分かりました。別子銅山のイメージなのですが、これらについては鉾山都市としてのイメージが強く、ちょうど観光で「東洋のマチュピチュ」として東平地区にスポットが当たっていたこともあるのですが、鉾山都市のイメージが強いようです。それと関心がある方は、全市的に遺跡が残っていますが、全てについて端から端まで行っている傾向があるのかなということで、逆に関心のない人は旧広瀬邸にも行ったことがない人もおられるということがつかめました。

3章以降についてが、今回のパブリックコメントで求めている主な事項になるかと思いますが、近代化遺産を使ったまちづくり構想です。基本理念として、「鉾物資源から協働のまちづくりの資源」ということを謳って、郷土新居浜への郷土心を育む協働のまちづくり行いたいということの基本理念に持っていきたいと思っております。特徴としましては平成14年の報告書の後、市長も会などで話されたことはあるのですが、ゾーン分けの考え方です。それについても、今回文章としては初めてまとめて、提示することができた

思います。ゾーンなのですが、4つのゾーンに分けておりました、ひとつは星越・惣開ゾーン、次が山根・立川ゾーン、それから、端出場・東平ゾーン、そして、旧別子・別子山ゾーンとこの4つのゾーンに分けたうえで、それぞれのゾーンに理念を持たせて整備を行いたいということです。例えば端出場・東平ゾーンですと、マイントピア別子の観光拠点という位置づけがあると思います。理念としては「近代化産業遺産ミュージアム近代化ロマンの体感空間」としており、マイントピア別子を中心とした観光拠点なのだという位置づけでございます。旧別子・別子山ゾーンについては、「明治近代化の象徴であり、近代化産業遺産の源泉と環境回復の体感空間」ということで、先人の偉業によってよみがえった緑の山を今後も維持できるように持続可能な状態で保っていくのだという位置づけにしたいと考えており、それぞれのゾーンに意味を持たせて整備していくということです。

もうひとつはまちづくり方針図を見てもらうと分かりますが、銅山の発展で残ってきた遺跡は、新居浜市の背骨に当たる真ん中の部分に近代化遺産は集中しております。その部分を市政だよりも書かせてもらっていますが、「別子往還道」として位置づけて、ゾーンと並行して、街道観光づくりを進めていく必要があるのではないかと位置づけにしております。

次に、パブリックコメントにない部分です。どうしても、所有者の意向が反映される部分が多く、具体的な整備計画についてはパブリックコメントの内容とすることは控えました。第5次長期総合計画が、本年度から始まりました。その中では、教育文化の分野であるとか、環境の分野、観光の分野とか、それぞれの面で近代化産業遺産を使ったまちづくりが提案されておりますが、第5次長期総合計画の将来都市像を具体的に実現するものであるのがみの整備計画書の位置づけです。それと共に、新居浜市の都市ブランド価値を高める地域資源であることの位置づけをしっかりと謳ったうえで、まちづくりを進めていくという狙いです。この整備計画ではいろいろなことが書かれていまして、実際に事業を起こしていくのは、予算のこともありますし、ひとつひとつ実施計画を立てたうえで進めていかなければならないと考えております。端出場・東平ゾーンの整備計画については、理念としては「近代化産業遺産ミュージアム近代化ロマンの体感空間」ということで進めていきたい。マイントピア別子を中心とした観光ゾーンであるのは今後も変わらないとの位置づけでございます。具体的にマイントピア別子としての今後、必要になってくるのではないかとするのは観光拠点としてのにぎわいづくりのために必要なのは人材育成だと思っております。ボランティアガイドは商工会議所で取り組みをしていただいておりますが、東平がブームになり始めた時にはガイドをできる方が3人しかいないという状況がございました。それからすると改善されてはいますが、それでも今後最もボランティアガイドができる人材育成を行って、近代化産業遺産というのはガイドの説明抜きには魅力が伝わらないと思っておりますので、そういったことで促進をして、ブランド価値を上げなければならないと思っております。広瀬歴史記念館とか、別子銅山記念館とか、ミュージアムは12万都市としては充実していることもありますし、マイントピア別子には本物の坑道であるとか、残っている機器類については、石見銀山の関係者にも羨ましがられたぐらい、たくさん残っています。端出場や東平には大きな貯鉱庫がありますし、こういったものをひとつひとつ連携させて、ネットワーク化して、学習の場、観光周遊の場としていく必要が

あります。今人気のある代表的なツアーは、一番インパクトのある東平の貯鉱庫だけを見て帰るとというのが大半の観光かと思いますが、工夫して、周遊観光を進めていく必要があると思います。そのうえで、旧端出場水力発電所の整備は大事になってくる。ひとつは観光拠点としての位置づけ。もうひとつは、旧広瀬邸は重要文化財になっておりますが、これは広瀬家個人の所有だったもので、これを新居浜市は寄附を受けた訳で、鉱山そのものの施設ではございません。その点では旧端出場水力発電所は最終的には住友共同電力さんが大きくなって独立している訳ですが、鉱山としての近代化を進めていく中での電力確保のための発電所ですので、いわゆる鉱山の施設です。そういった位置づけで、地図で見ても新居浜市全体の中のだ真ん中に当たる部分であります。そこに重要文化財として文化財拠点を持つことの意味合いは非常に大きいと思っております。両方の側面から旧端出場水力発電所の整備をぜひ積極的に行っていけたらというのが今回の整備計画の案です。

それと山根などともリンクした街道観光と申しましたが、周遊のまちづくりが必要だと思っております。具体的に旧端出場水力発電所の保存の話となりますが、現在調査報告書作成のための調査中で、石ヶ山丈はまだ不十分な状況です。発電機等につきましては、ジューメンスからは資料をいただきましたし、三菱からは電話連絡で調査を進めていますとのことで、住友重機には現場を見てもらいました。回転変流機のことと本館内の15トンクレーンですが、これは古い写真に写ってしまっていて、本館ができた時からあると思うのですが、住友重機が国内製のクレーンを作ったのが始めてだという記録が残ってしまっていて、それと同じ時期のクレーンだと思われそうですが、クレーンには銘板がないようで、もしかすると、それよりも古いプロトタイプかなという可能性もあり、とにかく中の設備についての価値評価をしていきたいと思っております。後は活用方針になりますが、旧端出場水力発電所はあまり手を加えないと、この検討委員会でもお話がありましたが、あまり手を加えない形でお見せするのがいいということだと思っております。先ほど説明しておりませんが、周りの樹木については、モミジとイチョウの木は残し、色づかない樹木は住友林業さんの許可をいただき、思い切って伐採を行いまして、マイントピア別子側から発電所の放流口の様子とか、石積みの様子とかもよく見えるようになりまして、いつも言っているのですが道後温泉本館は直してから360度どこから見ても価値が分かるようになりました。古い価値のある建物というのはいいい状態で見せる必要があると思いますので、出口の部分はこれまで隠れていましたが今回見れるようになりまして、この状態を保持していくうえで、整備を行っていく必要があると思っております。整備方針の中で一番問題になってきますのがアクセス路です。一昨年来、昔の南側の道が使えないかということがあって、伐採を行い、調べてみましたが、車いすが利用できるアクセス路となるとあまりにも急斜面なもので施工が困難だという結論が出ております。そういったことやマイントピア別子との一体化という面から、吊り橋等と書いているのは船越委員から索道的なものという意見もございましたのでそれらも含めて検討材料かなと思っております。アクセル路については先日、市政モニターからの意見がありました。それを見ますと、これを公開施設にしますかということのご指摘も受けております。それは費用対効果ということだと思います。橋などのアクセス路がどれくらいの費用がかかるのかというのがありまして、私たちが実際に吊り橋をひとつの例にした場合、どの程度の費用がいるのか、あるいはマ

イントピア別子側も、旧端出場水力発電所側もそんなに土地がある訳でもございませんし、特にマイントピア別子側の石積みがもつのかという問題もあるかと思えます。それらの調査を、内部的には予算を相談しながら進めていくうえで費用対効果の面も検討していかなければならないと思っております。公開のために何らかのアクセス路の整備を計画書の中には謳わせていただいたという位置づけになっております。以上です。ご意見、ご質問を伺いたいと思えます。

委員長 網羅的に今までの検討内容も含めてご報告がございましたが、ご質問、ご意見併せてで結構でございますので何からでもお出しください。いかがですか。

吉川 いろいろとご説明いただきましたが、タイムスケジュールで何をいつまでに結果を出すというのはあるのでしょうか。いつまでに報告書が出来上がるのか。

課長 調査報告書は来年度末になると思えます。

委員長 25年3月ということですか。

課長 25年3月が最終ということですか。できるだけ早くはしたいと思えます。今後、執筆に入っていきます。現状分かっていることは整理ができましたら、委員の皆様はお渡ししたいと思えます。

吉川 それが出てこないと具体的に動きが取れないということですか。

課長 本館の整備はそうなると思っております。

土岐 重要文化財のスケジュールはどうなりますか。

課長 重要文化財については、まず調査報告書ができましたら、文化庁に伺いたい。実際にそういう価値があるということのご説明になると思えます。まずはその報告書ができてからです。そういう意向については以前からご説明しております。県教委にもご説明しております。

土岐 それが重要文化財への第1歩ということですね。それができれば申請して、審査があつて。

課長 審査自体は長くはありません。実際は文化庁の職員の方、研究員の方から審議委員会に諮問することになります。これは年に数回だと思えます。これに従っていくということになります。まだ早くても2年かかると思えます。

吉川 重要文化財に出すための資料は今ここに出ているものだけでいいのですか。

課長 具体的な話では、歴史的な価値とか、共電からいただいた図面とか資料があります。建物の重要文化財なので、いつ誰がデザインして建てたとかは分かりかねている部分があるので、まだまだ資料調査を進めていかなければならないと思っております。

吉川 そういった話でしたら、鉱山にも協力いただいて、資料が出てきますね。

課長 今のところ出てきていないので、住友史料館であったり、また、住友が何かしたいという時には申請書が出ていまして、その裏付け資料が県に永久保存資料としてあり、残っている部分もあります。それらの調査も並行して行っている次第です。

仙波 ボランティアガイドの育成はどこが主体ですか。

課長 それについては今もしていただいておりますが。

仙波 と言いますのが、24年度の市の補助金公募から落ちたのです。市への説明の中では市長は必要性があるということだったのですが、公募の中では必要ないということで落ちて

います。

課長 ボランティアガイドにつきましては方法としてはいろいろあると思います。例えば、提供できる資料があります。過去の報告書もホームページ上でダウンロードできる仕組みを作りたいと思っています。例えばマイントピア別子に置いてもらうとか、勉強したい方にとって簡単にできるように整理した書類を用意するのもひとつの方法かなと思います。ワークショップなども広瀬歴史記念館とも協力してすることも可能かなとも思っています。一人でもファンを増やして、ボランティアガイドができるのが理想ではありますが、ファンを増やす必要があるのではないかと思います。

薦田 ボランティアガイドの方で、80数枚の資料を作られ、私も1部いただいたが、この資料は別子銅山文化遺産課にはありますか。

課長 あります。これは活かせると思います。これは作成された方の著作権とか意向もありますので、ご相談したいなと思います。大変詳しい資料です。

薦田 水力発電所も含めた話にはなるのですが、四阪島はどう言った取り扱いになりますか。

課長 これについては新居浜市域ではないことと鉱山にとっては自分の島であり、工場も現役で稼働しております。航路がなくて、社用の船しか通っていません。別子銅山の歴史の中に四阪島は重要な拠点だということは疑う余地がないのですが、整備の話の中には入っていません。

薦田 提案なのですが、別子銅山という大きな捉え方の中では切り離せないものです。方向として、年に1回、2回上陸させてもらって、煙突まで行かせてもらうとか、日暮別邸とか、決まった場所、決まった通路でガイドも付いて案内しますということで、何か上陸できるような方向に将来は持って行けたらいいかなと思います。今が唯一のチャンスなのではないかな。旧別子も鉱山としては聖地的な考えであまり触れてほしくないという話を聞いたので、ここも含めて、こういう高まりの中で話を進めていただければと思います。上部鉄道の跡なのですが、水力発電所の貯水池が近くにあるということですが、えんとつ山にしてもたまに来て景色を見てもらうのはいいことですが、運動の場としても活用してもらおうとしていまして、今から高齢者が増えていきますが、元気なお年寄りを増やしていこうとしている。元気な人は生子山へ登る人もおられるが、将来は犬返しも越えて上の石ヶ山丈まで行って、石ヶ山丈ということになると当然、上部鉄道という話になる。方向として、陸橋といいますか、人が歩ける通路を将来考えてほしいなと思います。それと下部鉄道の話なのですが、自転車の話がしまなみ辺りでは出ている。しまなみは中村知事がサイクリングロードとして進めていくという話がありまして、これと絡めて、西条でもそういった動きがあって、新居浜はそこまで行かなくても、下部鉄道を延ばして、山崩れの話もありますが、何とかマイントピア別子までサイクリングロードにできないかと思う。市民をマイントピアまで導いていくには車だけのアクセスだけでなく、市民が親しめる場所にしていかないといけない。とにかくお年寄りを元気にしないと、長生きといってもベットの上で長生きというのはよくないと思っていまして、方向としては間違っていないと思っている。14日から土居町の暁雨館で県主催の別子関係のパネル展、昨年松山の萬翠荘で行った一連のものですが、土居風にアレンジしているのですが、非常に素晴らしい会場で、パネル展が行われています。この前、見に行かせてもらったのです。土居は別子銅山の銅

を天満から出荷した歴史があるのですが、年月が非常に経っているということで、通った道も100%の断定はできていないようです。ただ、今回、県の行事もあって、郷土史家の方が道の調査をしています。鉱山からの古い地図も展示しています。私も地元に行っただのですが、天満には大庄屋があって、ここが住友と関わっていたという歴史が分かりました。土居も若干ですが関わりがあるので、絡ませていってはどうだろうかと思っています。22日まで行われていますので、ぜひ行かれてください。

課長 四阪島に関しては鉱山としては上陸させるつもりはございませんというご返事です。時折周遊の船が回ったりしていますが、それはやむを得ないということのようです。今のところ、上がれるようなことは認めるつもりはございませんというご返事でした。上部鉄道と下部鉄道ですが、上部鉄道については台風で崩れていると申しましたが、土地所有者である住友林業は先日お会いした時も非常に心配しておりまして、入口は止めているのだが、途中から上がる人もいて、それがホームページ上に載っているのだが、とにかく、実際に危険な箇所も多いので、中には入ってくれるなというご返事でした。今回の整備計画の中ではそれを謳う訳にはいかない。下部鉄道につきましては物言嶽トンネルの付近で崩れていて、所有企業が修復しているようです。かなり時間をかけて直しているようです。ご存じのとおり、運行をやめたのも山崩れが原因でした。その危険性は常にあるので、内宮神社のところで止めていて、鉱水路が通っていることもありまして、中に入るのはご遠慮いただきたいということです。今回の整備計画は、概ね第5次長期総合計画の中ではないかと思いますが、ご指摘の内容については今回の整備計画の中では謳わないことで御了解いただけたらと思います。ただ、薦田委員にご指摘いただいたように超高齢化社会を迎えることになり、今後、高齢者の健康づくりは非常に大事な話だと思います。今も年に2回郷土美術館主催で別子銅山記念館長が案内して下部鉄道を歩いたりしてくれています。それ以外にも健康づくりで山根グラウンドに集まって広瀬まで歩いたりして、これなんかは非常に多くの方が参加してくれているようですが、こういった歩け歩け運動のようなこともしていますので、近代化遺産とリンクした健康づくりというのは今後、大事になってくるのではないかと思います。

亀井 お話を聞いていると水力発電所の調査は25年3月までかかるということで、まだ、先は長いのではないだろうかと思えます。マイントピア別子は20年で、やり直して2年目なのですが、去年は40万人の人が来ているのです。道後で12%の入込み客が落ちている。次の起爆剤は水力発電所だと思っているが、待っていたのでは人が来なくなってしまう。お話があったようにライトアップが好評だったということで、私も11月19日には見に行きました。篠笛や街道歩きなどもしていたようですが、またやっていただけたらと思います。外から見ただけでも価値があるのではないかと思います。伐採もしてよく見えるようになっていきますから、そういうやり方も含めて、建物の整備を待つのではなくて、そういうあり方もあるのではないかと。もちろん、先には橋の話があったり、中の整備の話も含めてやっていかないといけないが、それを待っていたのでは、私のサイドで見ているとなかなかしんどいのではないかと。今年は南予のいやし博、今治ではしまなみの話も出ているのですが、目玉を何か出していかないとしんどいのではないかと思います。それが1点と、水力発電所はいいものだと思いますから、ライトアップも含

めて見せるやり方を含めてやっていくべきではないだろうかと思っています。中はこれからのことだと思いますけれども。それと、基本構想を見せてもらったのですが、ガイド観光づくりとか、観光交流とか。まちづくりはこれで結構だと思いますが、観光というサイドになったら、旅行業者に、旅行エージェントに、商品化してもらわないといけない。例えば、今、マイントピアには農協観光がたくさん来ている。最初はJTBだったのですが。旅行会社に商品として、来てもらわないといけない。健康づくりとか、健康ウォークとか、私共でも駅からウォークとかJRと組んで2回ほどやっているが、歩くとか自転車とかはなかなか、よっぽどの専門家や好きな者でないと来ないのです。それだったらどうしたらいいのか、この中にはその記述が薄いのです。それと、マイントピアに32万人来ていただいている。東平には6万人来ていただいた。数字は少し落ちている。そして広瀬は7千人くらいです。ミュージアムリンクだとこの中で謳っていると思います。もっと仕掛けているのですが、管理主体がみんな異なるのです。その辺りが非常に難しい。これを行政の側でイニシアティブを取っていただいて、同じ土俵の中にすると、もっと人が来るのではないかと思います。例えば、広瀬は祭りの時期に入館者が増えているのです。なぜかというところを祭りの駐車場にしたからです。そういうやり方もあるのではないだろうか。マイントピアで40万人、今年はマイントピア32万人で、東平が6万人ですが、この人たちにリピーターになってもらわないといけないと考えている。その仕掛けが自転車なり、自動車なり、ウォーキングなり、で観光協会としても考えておりますので、その辺りも含めて、この整備計画はいいのですが、先のことを書いてくれている。どうなのかなと思いつながり読ませてもらった。

課長 ソフト面のことでしたが、観光につきましては、南部観光開発という、古いものしかございません。新しい観光計画に取りかかっているはずですが。これには亀井委員からご指摘あった数字を載せたうえで、落としこんでいく必要があるのではないかと思います。

亀井 観光振興計画は第5次長期総合計画の中にもありますから、運輸観光課で一生懸命に作っていると思います。それが出てきての話になると思うのですが、この整備計画と観光振興計画とは整合性はあっていいかなと思うのです。とにかく、人を呼んでこないといけないというのが私に課せられた仕事ですので、これを読みながらそんなことを感じましたのでご意見を出させていただきました。

吉川 端出場以外でもパブリックコメントしてもいいというなら、意見を言わせてほしいのですが、旧別子を新居浜市民のために活用するとなると、観光面でやらなければならないのと古いものへの郷土愛を育てなければならないとか、教育的な面であわせなければならない。これは両極端に分かれると思います。いずれにしても一緒に努力はしていかないといけないのですが、今話があったように、ソフト面で、別子全体をPRしたり、案内したりというのは、我々から見ても、どこがどういう担当しているのか分からない、見えないのです。どういう形がいいのか分かりませんが、運用面だけでも、何人かが集まって統合したところで横の連絡を密にして、できればそこで軸になる場所があればいいのですが、そういうところが統括した運用の組織ができないものかと思うのです。それをやっていたかかないと他所の人が別子に来ようとしてもどこにどうしていきのかが分からないと思うのです。なんとかしてほしいなというように思うのです。その中で端出場水力発電所はシ

ンボルの非常にきれいなものですから、そういう位置づけにすれば、ライトアップもいいし、できれば今のままでもいいですから、早く内部を見れるようにしていくべきではないかと思います。いろいろと案を作ってきてきれいにしようと言っても相当時間がかかるし、簡単なものではないと思うのです。あるがままに見せるというひとつの方法で、だけでも少し前に進めた方がいいと思う。

薦田 石垣は早く直したが、屋根は傷んでいます。ガラスも割れています。こういったところは先行してやればいい。後からの工事にダブってロスが出るというのなら止めていい。全部一緒にかかるという考え方はやめてほしい。広瀬に行くに関連資料が別子銅山記念館にありますよとか、マイントピア別子も広瀬に行けばある程度分かるとか。土居の暁雨館に行って石の標本とかありますが、国道を通っていても案外知らない。新居浜でもついでに言うと、十河信二さんの生家の表示ができたのはごく最近で、生家跡には石碑はあったが、十河さんは西条に持って行かれた。あれはつらい話です。そういう目で、今言われたように、いろいろな人の目で、こういうようにしたらいいという情報が集まるようにしておかないとなかなかしんどいです。

土岐 私も今出た意見には賛成なのですが、ここは文化遺産登録の方に重きを置く部署で、最終目的は重要文化財にすることではなくて、それを知らせて観光に結びつけることなので、観光と一緒に動かないといけない面もあると思います。橋については、重要文化財としての登録を目指されているので、橋を架けるのは重要文化財とリンクしないのだと思います。ただ、観光面で言ったら、重要文化財になって、人が見たい時に、まだ橋が架かるのに1年かかるのでその時まで見れませんというのではなかなか難しいので、まずは観光の視点で近くまで行けるようにしておいて、文化財登録した時に、ワッと来られても、近くを周遊できるだとか、観光受け入れできるような形を整えて。文化財登録だけの視点では難しいと思います。観光での受け入れができるだとか、周遊できる仕組みが、別の部署の視点も併せて考えるといいのではないかと思います。もう1点が、施設と施設の連携のところ、マイントピアではマイントピアのゾーンだけしか宣伝していないと思うのです。東平は宣伝をしなくてもたくさんの方が集まっているので結構もったいない気がしている。あそこでもマイントピアはこんなにすばらしいとか、広瀬にもすばらしいところがありますよとかの宣伝。広瀬でも来られた人がマイントピアとかありますよとか、東平はこういうところがあるんですよとか、お互いの宣伝の仕合があまりないので繋がっていない。

亀井 観光協会ではスタンプラリーをしています。今年から始めたことなので。こういうように連携を作っていくということが必要で、この中にもリンクしてと書かれております。こちらの事業で東平へ行った人に広瀬とか別子銅山記念館に行ってもらおう仕掛けを考えています。せっかく40万人に来てもらっているのだから、もうひとつ行ってもらおうと思っている。

吉川 インターネットで別子銅山と検索したら相当出てきます。一番しっかりしているのは観光協会ですね。すべて連携させています。

亀井 一生懸命やって、連携、リンクさせるようにしています。

吉川 他のところは単独でしかできない。

土岐 松山だったら、坂の上と道後温泉というようにお互いの宣伝ができるようにしている。

課長 管理主体、運用主体がバラバラでありにも整理できていないというのはご指摘のとおりだと思います。それらを触ることだけでも効果があると思います。

委員長 今までになく、いい話になっているのですが、田中部長は委員の立場で入っていますが、市のシステムと言いますか、この課だけでなく、網羅的に出来難い面があるとおもいますが、その辺りはいかがでしょうか。

田中 委員の立場ではありますが、言われるように、組織の話になりますと、近代化産業遺産の取りまとめ的な役割として別子銅山文化遺産課がありまして、観光はご存じのように、経済部。純粋な文化財については、行政的な面では教育委員会。今は組織上は分かれています、本来はこの3つが横の連携を密にしてうまくいけばいいのですが、これがなかなか現実にはうまくいっていないことがあります、組織機構を見直して統合した組織にして一体的に進めたら一番分かりやすいというご意見も当然ありますが、今の段階でそれを、縦割り行政を廃止して、横の連携を密にしてというのは我々は努力していかなければならないのですが、十分でないところも承知はしておりますが、それぞれにそれぞれの課題を抱えております。経済部ではマイントピア自身を今後どうしていくかという根本的な課題を抱えていたり、我々の方は皆さまからご意見をいただいておりますが、対企業さんとの関係が出てきて全体の話に発展しにくい。教育委員会は広瀬以外に広がりがないのではないかとございまして、言われていることは重々承知はしておりますが、申し訳ないのですが、その辺りがいまいちすっきりした状況にないというのが片方にはありまして、一つ一つクリアしながらやっていかざるを得ないのかなど。そしてなおかつ端出場水力発電所の保存活用を進めていったり、一方では山田社宅エリアをどのようにするかという、当面の我々の具体的な事業のひとつで、全体的な話になりますと、全庁を挙げての話になりますので、今は申しましたように3カ所に分かれていますので、連携を図りながら、将来的にはシンプルで分かりやすい効率な運用をしないといけないと認識は持っておりますが、現実、今は何をしているのと言われますと耳が痛いところがありまして、そういうご意見は今後、活かしていく方向でやっていかないといけないと思っております。

薦田 少しきついことと言わせてもらおうと、今はたくさんお客さんが来ているが、のんびりしていたら退いてしまうようなこともあるので急がないといけない。ひとつの商売と考えると、みすみす逃すということもある。少しやり方を変えるだけで相当よくなることもある。

委員長 今日、いろいろ出ている中で、横井課長の下では、しっかりしたものを求めて、委員会としてもそうかも知れないが、吉川委員や亀井委員からも言われた今できること、薦田委員が言われるタイミングを逸したらいけないという意味合いで、今できること、それは安全とか行政がする以上はいろいろな問題があるとは思いますが、土岐委員も言われたように、今できることを何とか模索していくというそのことも、広範囲な作業をしていることもお聞きして大変だなと思ったりしている。それも自分の考えだけでできることではないので、対企業のこともあるし、庁内調整とかいろいろあるのだろうけれども、できないのではなくて、何ができるかということから、ひとつからでも仕掛けていくというのは、口で言うのは簡単だが、そのあたりもう少し突っ込んだ模索がどうなのでしょう。

課長 観光でいくと、1泊2日で新居浜市に泊ってもらうのが理想なのです。ネタはいろいろあるのに、一番いいところだけ見て、松山道後で泊るという状況なので、そこは皆のリン

クをきっちりとしなないといけない。そのためのコーディネーター役になればいいかなと思います。広瀬歴史記念館も展示物は子供たちが見ても楽しめるような工夫があるのではないかと思いますし、そのあたりも相談していきたいと思います。

薦田 幸平にしても伊庭貞剛にしてもすごい人なのですが、新居浜の大人でもあまり知らない。伊庭貞剛は10%の人も知らないでしょう。伊庭貞剛の名前は知っていても中身は知らない。今押し込んで行かないといつ押し込んで行けるのか。えんとつ山でも、120周年で2年ほど前でしたが、普通、100周年はしますが、何も動きがなかった。110年もなかった。公園化しようという動きは以前からあって、トイレを造ったりはした。なぜ120年かという、南高では河野先生が生徒と学習されていて、マイントピア別子はJTB、リーグと組んでやり出した。えんとつ山は荒れていたのが私がまちづくり校区集会で取り上げた。私は煙突や石積みの文化財登録は一切知らなかった。全く関係なかった。どうしてこんないいところを放っておくのかと言っていた。ちょうど、みんなの気持ちが整ったところで、来年が120周年だということでした。子供たちはキャンドルナイトをしたり、ベンチを作ったりしたのが始めでした。130周年はこんなに盛り上がりできていたかかというとならないでしょう。我々は難しく、その時にやりそうな人という、今のよう、に世の中のために何かしようという気持ちがほとんどないのです。そのあたりが先輩方とは違いますから。最後のチャンスだったのです。今言ったように水物だということです。その時にやらないといけないのです。それから、今回、土居に行って気がついたのですが、索道を入れた図面を作ってくれた。私は以前から思っていた。それと、話をしていた分かったのですが、立川で中宿と言っていたが、そして口屋があります。土居にもありました。2か所の中宿がありました。口屋が天満にありました。それは一部の人しか知らなかった。

吉川 この整備計画よりもいろいろしておきたいことはあります。少し抜けているなどは思います。

課長 実際はそれぞれのゾーンの整備計画がこれに付きます。最終は分厚いものになります。後、ついでに言いますと、端出場水力発電所が100周年です。

亀井 それは何とかしないと。そういうものに引っ掛けて何かやらないと。

薦田 橋は遅れるのでしたら、道路をつけることで車いすの話をしていましたが、まずは歩いて降りれるような道を整備したらいいと思います。降りてもらって説明をするとか。もうひとつには、マイントピア側に映像で見れるとか、テレビの遠隔操作で、動かして内部が見れるとか、何か工夫したらいいと思います。

亀井 中へ入れなくてもそういうこともありますね。

吉川 橋にしても、民間でしたら簡単に参考見積りで業者にどんなものがあるか尋ねて、お金はすぐ出てきます。そんな簡単な方法を考えたらすぐにできるのではないかな。

土岐 今調査をされているというので、なるほど進められていると思ったのですが。あそこは中を見せるのが難しいし、問題があるが、マイントピア側で説明ブースを設けて、橋を渡って周りをぐるっと回るだけでも非常に売りになるし、観光面だと東平とかが観光雑誌に載って、東予版に載るようにしたらいいですね。

亀井 写真が「じゃらん」に載ったらすごいですよ。「じゃらん」に載るとどこだろうかということですね。お客さんに売るのはこういうことです。

土岐　　そういうことの影響が大きい。定期的に観光スポットとして載るようになればいいと思います。

亀井　　そういう仕掛けを私たちも含めて、私たちはソフト面で対応していきます。

委員長　それぞれの項目に関して、まとめて折衝していかなければいけないですね。今回出てきた当面の対応策と言いますか、そういうことも併せて検討していただいたらありがたいと思います。

亀井　　お互い協力しながらお願いいたします。

委員長　他にございませんか。事務局からは何かありますか。

課長　　先ほど、薦田委員が言われていましたが、土居の暁雨館でパネル展が行われており、19日13時から宇摩古文書研究会の方のお話があります。その前日の土曜日には図書館で別子鉦山目論見書の話があります。ぜひ時間があればご参加ください。

委員長　今後の予定はどうなりますか。

課長　　3月議会に向けて、会派説明を行っていて、その時に他のゾーンを含めた最終整備計画案を議員さんにお渡ししてご意見をもらうようにしています。そしてパブリックコメントが21日に終わりますので、ご意見に対して、これは訂正しますとか、これはこういう理由でできませんとか、市の考え方を書いた上で公表したいと思います。最終的に3月末を目標に計画書ができるように持っていきます。できましたら委員の皆様にもお渡ししたいと思います。

委員長　ありがとうございました。それでは本日の保存活用検討委員会は終わりたいと思います。ありがとうございました。